

< 短 信 >

## 環境教育研究会からの提案

秋吉 祐子

( 聖学院大学政治経済学部 )

環境教育研究会は2007年度に3回、出版を含め何らかのツールを使っての広報活動を行うための協議を持ちました。ブレインストーミング形式で意見交換をしました。

綿抜顧問、木下委員を中心として、小柳委員、佐々木委員、増子委員、秋吉、時に逸見顧問(紙上参加)、沼尻委員、オブザーバーの北星堂の横井氏の参加において行いました。

結論的には二つの方向性が出されました。

一つは「**新エネルギー革命**」の提案です。木下委員の発案です。これはエネルギーと水とを総合的に考える視点からの発想で、これまでにMACRO REVIEWや年次研究大会でいくつかの具体的な構想が発表されています。すでに突入したと言える食糧・エネルギー危機の後に想定される「再生可能・自然エネルギーの時代」、その後の「拡大再生産と価格破壊による、瞬く間のエネルギー供給過剰時代」が想定されるなかで、適正なエネルギー革命100年の計がデザインされるのではないのでしょうか。

発展途上国の場合は、ローテクでソーラークッカーなどの費用対効果の高い太陽エネルギー利用の普及が重要です。これを基礎としての発展プログラムが成立するでしょう。

「日本が本気で太陽エネルギー利用に取り組みれば世界に誇れる二酸化炭素削減効果が期待できます。」(2050年に70%削減も夢ではない!)

太陽エネルギー利用を本格的に取り組む上で農業・農村に出発点が期待できます。農地を太陽エネルギーシステムに転換すると、生産は落ち込むどころかかえって増産が可能となります。農村ではエネルギーと生産との有機的な繋がりにより両者の折り合いが付き、経済的にも成立します、都市では成立が困難であっても。

上記の視点を踏まえてマクロ的視点のある会員有志の成果や提案を展開してはどうでしょうか。

もう一つは**科学知識リテラシー**の内容です。秋吉提案です。文系の大学生にも役立つ内容です。綿抜顧問が指摘されるように巷間に間違っって伝えられている“科学常識”が多くあります。気づき、理解しないと個々人のレベルのみではなく広くは人類社会レベルにおいても損失となります。論だけではなく、現代人が薄弱となっている生命体としての感覚の重要性を認識することも伝達したいと考えます。

アンケートやブレインストーミング方式でQ&Aを出す。化学の教科書編纂のご経験のある綿抜顧問を中心に、JAMES会員の有志参加者を募って編集したいと考えます。

上記二つの提案において、コーディネートを環境教育委員会秋吉が担当する予定です。

どちらかまたは二つの提案にご協力いただける会員の方は環境教育研究会秋吉宛てにメールにてご連絡いただければ幸いです。yaki035@nifty.com (Fax: 03-5700-7796)